

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです
常に先手必勝で動く人 「緊急ではないが重要な仕事」に価値がある

仕事というのは、「重要度」と「緊急度」によって、四つの区分に分けることができます。基本的に人は、緊急度の高い仕事から優先的に処理しようとしてします。締め切りが間近なもの、たとえば、事務処理・経理処理などです。そしてほとんどの社員は、緊急度の高い仕事をこなすだけで手一杯になってしまい、緊急度の低い仕事は放置してしまいます。重要度の高い仕事であっても、緊急度が低いために手つかずになってしまいがちなのです。

しかし、会社というのは「徹底度」ですべてが決まります。そして、社員個人の仕事についても「徹底度」で決まるのです。基本的に放置したままにしている仕事などありません。すべて何らかの形で処理する必要があります。今日中の締め切りの 500 円の仕事と、一週間後に締め切りの 500 万円の仕事は、どちらが重要かといえば間違いなく後者です。しかし、前者の仕事が今日中の締め切りであれば、何をおいても今やらなければなりません。翌日にも、翌日締め切りの仕事があれば、そちらが優先されます。そうして緊急度に振り回されているうちに、500 万円の仕事の締め切りがだんだんと迫ってきます。結局は、前日になって手をつけることになるわけです。その間、優先されてきた仕事というのは、ほとんどは緊急度は高いけれど重要度は低い、いわゆる「デイリーワーク」と呼ばれる仕事です。「面倒だな」「他にやらないきゃならない仕事如山積みなのに」と思いつつも、やらないわけにはいかないのです。古い考え方の会社では、そういったデイリーワークがいまだに紙ベースで行なわれ、面倒な手続きが必要で、かなりの時間が取られてしまっていることも珍しくありません。

一方、重要度は高いが緊急度は低い仕事は、たとえば何十人、何百人の仕事の効率化を図れるシステムを構築したり、マニュアル化したりするなど、時間はかかるものの完成すれば数千万円分の価値を生む仕事です。一例を挙げると、出発地と到着地を入力すれば自動的に交通費が計算され、そのまま上長にデータ送信でき、決済が下りれば自動的に自分の給与口座に経費が振り込まれるシステムをつくれれば、紙ベースで処理する何十分の一の時間で経費精算が済みます。

また、重要度も緊急度も低い仕事とは、たとえば事務所のエアコンディショナーの掃除です。夏が終わり、冬にヒーターとして使用し始める前には、すべての清掃が終わっていないとならないわけです。これを放置しておくといつの間にか緊急度の高い仕事になってしまいます。ですから、時間を見つけて適切な処置を前もってしておくことが肝心なのです。こういった仕事をどんどんこなすようにしていくと、デイリーワークにかかる時間が短縮できるようになりますし、本来の仕事ではないムダとも思える仕事に振り回されずに済むようになります。それによって緊急度の高い仕事が効率よく処理できるようになれば、あいた時間を利用してさらに緊急度の低い仕事に手をつけられるようになります。

こうしたいいサイクルをつくり出すために、意識して緊急度の低い仕事にどんどん手をつけていくのが仕事ができる社員なのです。緊急度が高い仕事だけで手一杯にならず、少しずつ緊急度の低い仕事にまで手を広げていけるようになると、仕事の内容が変わってきます事務処理に追われなくなり、より頭を使う仕事や、会社に巣くった根の深い問題にも乗り出していけるので、会社が自然といい方向へ進み始めます。体力をすり減らすだけで仕事をしているつもりになっている人も、次第にいなくなるはずですよ。

会社と社員個人の仕事は何で決まると言っていますか？

()